

## まちづくりリーダー育成事業

### ファシリテーター養成講座

#### ■ 事業の目的 ■

これからの地域活動は、住民の地域に対する思いを緩やかに醸成し、地域全体で共有していくことで、住民の主体性を引き出すことが重要となってくる。住民を「どう動かすか」ではなく、「どう巻き込むか」である。地域全体の主体性は、何度も顔を合わせ、話し合う中で信頼関係と共に生まれていくとも言える。

住民の共感と協働を得て、初めて地域が動き出すと考えると、その状況を作り出す役割が地域コーディネーターであり、本事業「つながり」をキーワードに、「地域コーディネーターの役割ができる人」を「まちづくりリーダー」と定義し養成する。

#### ■ 養成する能力 ■

多様な意見を持つメンバーのチーム力を最大限に引き出す、コミュニケーション技術としてのファシリテーション能力

#### ■ 受講対象者 ■

- ①長崎市にお住まいの方、又は、通学、通勤しているかた
- ②18歳（高校生を除く）～49歳までのまちづくり活動に関わっている方、また、まちづくり活動に興味があるかた
- ③2年間通して受講できるかた
- ④受講終了後、まちづくりリーダーとして長崎市のまちづくりにご協力いただけるかた

#### ■ 参加人員 ■

H26年度に引き続き継続受講する36人



講師 堀 公俊 氏

#### ■ 講師略歴 ■

堀公俊事務所代表、組織コンサルタント、日本ファシリテーション協会フェロー研究会や講演活動を通じてファシリテーションの普及・啓発に努めている。元関西大学商学部非常勤講師、元法政大学キャリアデザイン学部兼任講師。

#### ◆主な著書

『ファシリテーション入門』『ワークショップ入門』『ビジネス・フレームワーク』（日経文庫）『問題解決ファシリテーター』『組織変革ファシリテーター』（東洋経済新報社）など多数

#### ◆経歴

- 1960年 神戸生まれ
- 1984年 大阪大学大学院工学研究科修了。大手精密機器メーカーにて商品開発や経営企画に従事。
- 1995年 組織改革、企業合併、教育研修、コミュニティ、NPOなど多彩な分野でファシリテーション活動を展開。
- 2003年 有志とともに日本ファシリテーション協会を設立し、代表者に就任。

# 平成26年度 まちづくりリーダー育成事業

## ファシリテーター養成講座

平成26年4月6日(日)

前年度の振り返り/ワークショップ講座



「ファシリテーター養成講座」の2年目がスタートしました。

前年度に、ファシリテーションスキルをじっくり学んだ受講生達。今年度は、自主研修を交え、「ランタナワクワク大会議」を企画・運営するという具体的課題を掲げて、実践力と計画づくりの力を磨いていきます。

まずは、昨年度学んだことを振り返りつつ、改めて、ワークショップの組み立て方や実例をふまえた企画・運営のポイントを学び、10月の実践研修に向けての一歩を踏み出しました。

自主研修 平成26年6月8日(日)

平成26年7月6日(日)

平成26年8月3日(日)

平成26年9月7日(日)

「ランタナワクワク大会議」に向けて

10月に開催される「ランタナワクワク大会議」の企画・運営方法について、グループごとに、アイデアを出し合いました。

う～ん！どれも力作で、一つのプログラムに決めるのは、至難の業！！



平成 26 年 10 月 5 日(日)  
「ランタナワクワク大会議」



「ランタナ活用の“虎の巻”を作ろう！」というテーマで開催した「ランタナワクワク大会議」。全体の進行役や各テーブルファシリテーターとして参加しました。

プログラムをもとに、楽しいゲームを織り交ぜつつ、参加者の気持ちをほぐし、意見を引き出していきます。

「これまでで1番困ったことは？」

「それをどう乗り越えた？」

「ランタナはどう役立てられる？」

最後は、参加した皆さんの思いが一つにつながって、大変長い「虎の巻」ができました。



平成 26 年 6 月 28 日(土)～29 日(日)  
先進地視察研修「津屋崎ランチ」



先進的なまちづくりに取り組んでいる津屋崎ランチに視察研修へ行きました。  
まちや人の魅力を引き出し、日常の質をどう高めるかに力点をおいた「まちおこし」の話は新鮮で、まちづくりにおけるファシリテーターとしての心得だけでなく、志を持って行動し続けることの大切さについて学ぶ、良い機会となりました。



平成 26 年 11 月 2 日(日)  
振り返り

～職場、地域での実践に向けて～

堀先生の“最後の授業”。「いかに皆のやる気を引き出すか」「実践し、継続し、進化していける。それがプロフェッショナル」。さまざまなキーワードが、皆のまちづくり魂を揺さぶります。最後は皆で輪になって、これまでに学んだことや、今後の抱負について語りました。



平成 27 年 3 月 21 日(火)  
ファシリテーター養成講座修了式  
(in 長崎伝習所まつり)

2 年間の養成講座を修了した受講生 25 名に田上総長から修了証書が手渡されました。

## まちづくり先進地

### 津屋崎ランチ研修感想

「さざ波」のように徐々に伝わる

#### まちづくりへの思い

まちづくりに必要な思いは、強い波(熱い思い)ではなく、連続して続くさざ波のように、徐々に人に伝わり共振し人を動かすのだと感じました。

まちづくりをするうえで、キーマンは、その「さざ波」をつくり出し、送り続けることが必要である。「さざ波」は小さく非力ではあるが、送り続けることで固い岩をも削ることができる。そんなイメージを掴むことができました。

まちづくり=祭り・イベント・新施設などトップライトのところばかりをまちづくりと考えていたが、日々の生活の中の小さな喜びや気づきが人々を笑顔にさせる事ができると2日間の研修が気付かせてくれました。

その中でも研修を受けた人々が、体験した場所や時間が同じであっても、個々感じることで違いその意見をまとめることでよりよい意見になることも実感しました。(安田一昭)

#### ふしぎな力と魅力的な住民が住む町

##### こどもの頃に大好きだった本を思い出しました

津屋崎ランチの研修を振り返っているとき、こどもの頃に大好きだった本を思い出しました。それは青い鳥文庫の『霧のむこうのふしぎな町』(柏葉幸子/著、講談社)です。読み返してみると(ファンタジーなので)町の様子などは全く違いましたが、不思議な力と魅力的な住民が住んでいるところが少し似ていて、こどもの頃、理想の生活に憧れてわくわくしていた気持ちを思い出しました。

津屋崎ランチは、今回のコーディネーターの

山口さんと古橋さんをはじめ、こどもの頃の気持ちを忘れない人たちが自ら楽しみながらやっているから面白い！津屋崎に住む人たちがみんなが「しあわせ」になる仕掛けを考え出し、「カタチ」にして、花を開かせていっている。そこには山口さんが言われるように「押しつけるのではなく待っている」という大らかさ、住民に無理をさせないという優しさがポイントです。

そして、まちづくりは「課題解決型よりも未来創造型の方がよい」など先端の考え方に触れることができたことも大きな収穫でした。私もこれからさらにファシリテーターの技術を学び、長崎の町で「いいね！」と言い合える仲間と一緒にまちづくりに関わっていきたいと思います。

(大串美咲)



#### 信念を持ち、人を信じて、根気強く継続していくこと

二日目のお昼ご飯の後、訪ねた花祭窯。移住されてきた陶芸作家の藤吉さんが語ってくださった、この街の好きなところは歴史と人。息子さんとお揃いの山笠のTシャツの文字を自分が書いたこと、山笠の準備に熱心に参加すると創ってもらえるというペンダントのエピソード。

お店を出て少し歩くと、山笠の準備を仲間としていた、「むすび」のご主人と遭遇。楽しそうに仲間と笑い合いながら、私たちが長崎から来て昨日お昼ご飯を食べにきたことを紹介してくれま

した。別れた後に、仲間に「今日は午後から古橋くんのやつ(小さな図書室をつくる会!)に行く」と話しているのを聞いて、あんな小さな街の徒歩圏内の中に豊かな日常が嘘ではなくて本当にあるんだと改めて感動しました。

その人それぞれの本当の意味での幸せのカタチを、既にあるものを存分に活かし実現する。

地味で見えなくて、すぐには評価や結果が現れない事をされているという山口さんが耕し続けている土壌で育っている何かの一部分を、現地ですべて自分の目で見て感じる事ができたことは、自分がまちづくりに関わっていく中で信念を持ち、人を信じて根気強く継続していく為の力強い心の支えのひとつになると思います。これからも時間を共にした仲間達と一緒に楽しみながら長崎のまちづくりに貢献していきたいです。

(大城あゆみ)

### 一時的な催しではなく継続的な暮らしの支援に取り組むこと

まちづくりを本気でやっている人の話を聞き、実際にそのまちを見ることができ良い刺激を受けました。移住支援事業、住居の改修を含め問屋事業、学びの場づくり、起業支援事業、と津屋崎での取り組みの内容を聞き、まちおこしの具体的な事業を知ることができました。それと同時に山口さんの言うとおり、一時的な催しではなく継続的な暮らしの支援に取り組んでいることが分かりました。これまでまちおこしといえば、何か催しを開いたり、新たな名物をうみだしたりすることばかりをイメージしていましたが、その認識を良い意味で変えることができました。そして、まちづくりおよびまちづくりファシリテーターについて「多様な価値観をもつ人と付き合っていくこと」「感情の折り合いをつけること」「0を1に

する力」「押し付けNG、引き出す力」が大事であることを学びました。今回学んだことを、今後仕事など活動に生かしていきたいです。

(吉本絵美)



### 様々な要素が揃ったまちづくり

実際に山口さんのまちづくりの様子を見て、様々な計算をされていたんだろうと感じています。おそらく、山口さんに聞いても「そんなことはない」といわれると思いますが。まちづくりには、ビジョン・連携・行動様々な要素が必要。山口さんのまちづくりは、その全てが揃っているのだと思います。

教員という立場で、どのようにまちづくりに携わっていくかと考えると、第一に自分自身が動くことが必要だと思っている。楽しむことで、第2第3の波(つながり)が出てくると思う。このつながりの広がりが、津屋崎にはあるのではないかと思います。

もう一点は、教員しかできないことです。それは、まちづくりに興味を持てる小中学生を育てていくこと。そのためには、全市的な取り組みをしていく必要があると思います。そのために、何ができるのか、何をしないといけないのか、そのために、どんな障害があるのかなど考えていければと思います。

2日間、お世話になりました。(松原貴大)

## 生きるために、人は人と繋がっている

今回の研修で得たものは沢山ありますが、以下に3つを上げさせていただきます。

1つ目は「相手の事を知る」ことの大切さを改めて感じました。人には感情があり、その感情を人は察知するという事。

2つ目は『「まちづくり」は人が住む場所を作るということ』で、人の思いやまちの歴史を無視しても当然良いものは作ることができないこと。

最後は「多角的な視点を持つ」ということ。結果が同じであれば、そのプロセスは様々であってもいいこと。

全体に共通することは「生きるためには人は人と繋がっている」ということで、相手を知るためにはコミュニケーションが必要であり、知り得た情報を整理し形作っていくものがファシリテーションではないかと自分の中で位置づけることができた研修でした。(井上順次)

## 自分を分かってもらうためには

### まず、相手のことを好きになること

津屋崎の山口さんにお会いし、大変勇気をもらいました。もともと津屋崎住民でないとのこと。現在、住民の中に溶け込み、津屋崎を活性化させるに至っておられ、その行動力に感心しました。そして何より、明るい。そして気さく。その町の団体に自分を分かってもらおうと思えば、まず相手のことを好きになること、という言葉は心に響きました。

団体への思い込みを捨てて、人対人として、相手をまず、知る、聴く、そして自分のステージを待ち続けるという姿勢が大事だということ学びました。このことを念頭におき行動し、続けていきたいです。

また、互いの感情の折り合いをつけるためにも、

ファシリテーションのスキルが必要ということも痛感しました。研修に参加し、自分の地域の活性化をより具体的に考えるようになりました。実践に努力したい。(片岡恵)

## まちづくりに必要なのは「人と人をつなぐこと」

平成25年度から1年間を通して行われている「長崎伝習所ファシリテーター養成講座」の中で、まちづくりを先進的に行っている津屋崎ランチの視察研修に参加させていただきました。

2日間の研修で、たくさんの気づきや学びがありました。特に感じたのは、まちづくりに必要なのは「人と人をつなぐこと」だということです。津屋崎では、もちろん住民の意識も高かったのですが、津屋崎ランチの存在が周囲をつなげる役割を果たしていると感じました。住民の信頼を得て、その人々の力を最大限に引き出すことが、まちづくりを行う上で重要なことであると気づきました。

最後に、今回のような有意義な研修に参加させていただき、本当にありがとうございました。この経験を長崎のまちづくりにも生かしていきたいと思います。(竹中克月)

## 対立(価値観の表現の違い)にどのように立ち向かうか

津屋崎でのまちづくりの事例を視察することで、まちづくりは基本的に将来像を構築していくものであるが、その地域で育まれてきた歴史や文化、そしてそこで生活してきた人々を基礎として成り立つものであることを認識しました。特に、今回の研修において最も考えさせられたのは、「まちづくり」を進めていく中で必ずぶつかることになると思われる対立(価値観の表現の違い)に

どのように立ち向かうか。まちづくりは外部からの押し付けではなく、そこに住む人々を中心とし、その人々が本音を語り本気で参加し協力し合える場(きっかけ)をつくるのが大事だと感じました。まちの住民の横のつながり、まちづくりをサポートする人も一人ではなく協力者を見つけることも重要。また、イベント型ではなく、まちの生活に根付いた形の変化を促していくことが持続可能であり、本当の意味でのまちづくりになるということに気づかされました。(蒲原新一)

### 他の町では見ない、新しい形の街づくり

今回、私は初めて津屋崎と言う町に行きました。津屋崎と言う地名もまったく知らず、どこにあるのかも知りませんでした。研修に行く前に場所だけは知りたいと思い、インターネットで地図を検索し場所だけは理解をしました。一緒に津屋崎の町の歴史や、津屋崎ランチでの取り組みなどについても下調べをしようかと思いましたが、まったく知らない土地だったので何も情報を持たずに、初めて見た印象などを感じたかったので下調べはせずに当日の研修に参加しました。研修2日間、津屋崎での研修で町の中を散策したり、山口さんの話を聞いて思ったのが、この津屋崎ランチと言う取り組みが他の町では見ない、新しい形のまちづくりだと思いました。あと、まちづくりの中で一番なことは、誰もが損をしないまちづくりだと思いました。損をしないまちづくりこそが、みんなを笑顔にして続いていくまちづくりの形だと思います。(西岡克浩)

### 自分にはなかった「楽しいからやる」っていう考え方、すごいと思いました

福岡県福津市を訪れて、地域の方々が生きいき

としているなあと感じました。町を歩いているときに聞こえてくる子供たちの声があって「暮らし」がある町だと思いました。

山口さんのお話にあった「田舎は良い環境だけど、人が集まらない。じゃあ人が集まるまちを創ろう」ということは印象に残りました。まちづくりをするって考えたときにどうしても課題を解決するアプローチになってしまいます。でもそのようなアプローチではなく、楽しいからやるっていう考えは、自分にはなかったのでこの考え方、すごいな、楽しそうって思いました。観光で街づくりをやっているところは多いが、観光を超えた街づくりだったような気がします。2日間ありがとうございました。(植木園竜矢)

### 誠実で真摯な態度で困っている方と向き合う

「町づくり」というと、やる気のない住民に叱咤激励してよそ者がリーダーシップで引っ張ってやることが多いイメージで、やっている方と住民との温度差があるものと思っていました。

ところが津屋崎ランチで代表の山口さん達の話を知ると、最初は住民からその様な態度で近づいていると勘違いされたようだが、山口さん達の誠実で真摯な態度で住民も動かされ、住民も自ら「今のままではだめだ」と気づき進んで改善に努めたのが見えて、非常に良い町になったんだと感じました。

今後、私も養成講座で習ったことに加えて、今回の研修で体験した誠実で真摯な態度で困っている方と向き合ってやっていきたいと感じました。非常にためになった研修でした。(井上恒博)

## まちづくりは人づくり

### 人間的な魅力や人としてのあり方が大切

津屋崎は美しい自然と町並み、のんびりとした空気が心地よい場所でした。まち歩きを通して、古い建物の良さを活かしつつ、積極的に新しい試みを行っている地域のみなさんの懐の深さを感じました。津屋崎ランチは地域の方が気軽に集まり語り合う雰囲気があり、とても温かな空間でした。

また、まちづくりファシリテーターの山口さんの貴重な体験を聞かせていただき、志を持ち行動を続けることの大切さを学びました。2日目のワークではワールドカフェ形式で「まちづくりファシリテーターに必要なこと」を話し合い、まちづくりは人づくりであり、人間的な魅力や人としてのあり方が大切であるという意見が心に残りました。そして、自分たちの町にはどんな隠れた魅力があるだろうか、どんなことが出来るだろうかと考えるきっかけになりました。(林田志帆)

### 「自ら決断して行動する思考」に変えていく過程が大切

山口さんの体験では、今そこに住んでいる人の生き方や考え方を尊重する態度がうかがえました。その人達ができること、したいことを、具体的な行動の形にして提案することで、誰かに何かをさせられるのではなく、自ら決断して行動する思考に変えていく過程が、ある活動後に残る財産として、とても大切なのでは、と思いました。

「まちづくり」とは、一般的に大規模で、お金と労力がかかる大変なことと思いがちですが、できることから、できる人でといったスタートの「まちづくり」が、とても素敵だと思いました。大規模なイベントは、充足感、一体感が得られるものであっても、衝突や疲れも生み出すといった

素直な山口さんの体験を聞いたことも、「まちづくりに邁進(まいしん)する人は、つらいことがあるのは当然のこととして、それを乗り越えなければならない」気がしていたので、意外でした。どんな取り組みでも、活動する人の負担になる部分を減らすために工夫をすることは、必要だと思いました。(原真寿子)

### 地域住民の方々と繋ぎ、行政と住民が一体となった関係づくり

今回の研修に当たって、私の参加目的は、まず、町の活性化に取り組んでおられる方々の手法の前に、その心意気は何処から湧き上がっているのか?ということこそ是非学びたいというものでした。

到着早々、津屋崎ランチの方々に暖かく出迎えていただき、研修受け入れが直接自分たちの仕事の一環として認識されていることに対し、有難く、また、凄くと思いました。

また、町おこしの様々なネタを考えられ、これらを実現するために町の誰に相談すればよいのかを試行錯誤されて、失敗を積み重ねて前に進まれていること、さらに、自分たちと縁もゆかりもない土地に住み移って、昔から住んでいるかのように淡々と町おこしを実行され、住民の方々の誤解を解きながら一体となって取り組んでおられていることに感銘を受けました。

私は、防災を切り口とした町づくりを住民と行政が一体となって取り組むことについて、長崎方式を確立し地域防災力を向上させ、32年前に経験した長崎大水害のような大規模災害が発生した場合においても、一人の犠牲者も出さないよう取り組みたいと思っております。

今回の視察研修で様々なヒントを得られたので、このヒントを生かして、地域住民の方々

を繋ぎ、行政と住民が一体となったウィン・ウィンの関係づくりに取り組んでいきたいと思いました。(岡本和幸)

### やり遂げたいことをしっかり見極め、自分を変える努力を

学んだことは、二つ。一つ目は、自分ができる事で楽しみながら取り組む姿勢が大切だということである。津屋崎ランチの代表である山口さんの「自分が出来ることに楽しみながら真摯に取り組む姿勢」を見て、周りの人達が勇気を持つことができたり、自分や住んでいる町に自信を持って関わっているなど感じました。

二つ目は、リーダーとファシリテーターの違いについて理解が深まったこと。リーダーとは、表に立ち周りの人々の個性を引出しながら引っ張って行く役割であり、ファシリテーターは、公平性を保ちながら関係する人々の想いを上手に形にしていくサポートをする役割だなと思いました。

これからのまちづくりに必要なのは、リーダー的な役割と、皆の想いを形にするサポートの役割を担う役割の人材育成をバランス良く行うことが重要であると思います。1人がどちらの役割も担えると良いかもしれないが、それでは結局リーダーが居なくなると続かないというような状況に陥る可能性が大きいので、まちづくりは1人でなんでもこなしてはいけません。突っ走るリーダーと冷静な判断が出来る副リーダーのような関係が一番理想的。これからも、やり遂げたいことをしっかり見極め、自分を変える努力をしていきたいです。(生月菜々子)

### どんな種も発芽し、花開くまで面倒をみる「土づくりの人」

山口さんが「よそ者」から「地元の人」になれたのは、たくさんの人とのコミュニケーションを大切にしたから。価値観が合わなくても、一緒に楽しく暮らしていくために、まずはみんなが仲良くなるのが一番。感情の折り合いをつけていくことこそが、一番大事なことなのだ。

津屋崎のまちは、小さいけれど、そこにいるだけで何かどっしりと落ち着ける空気感があり、住民がとてもイキイキとして見えました。古民家の素晴らしさは言うまでもないが、古きよき時代を大切にしながら、新しいものも違和感なく取り入れているところは、お年寄りから子どもまでがこのまちでの暮らしを充分楽しんでいることがよく分かりました(若者と熟年者との隔たりが見えない感じが理想的でした)。

二日目のミーティングでは、「自分の思いを伝えるのでなく、まずは人の話に耳を傾け、自分から人を好きになるよう心がける。意見の違いに着目せずに、発言することを素晴らしいと思う」というお話が印象的でした。また、何気ない日常の中に普段と違うことを取り入れる、新しい取り組みが平凡な日常を変えていくという発想に驚きました。

山口さんは自分を「土づくりの人」だと。「心の種を持っているが、表現できない人もいます。どんな種を持ってきても発芽し、花開くまで面倒をみるのが自分の役割である」という言葉が心に響きました。(江原有紀子)

### 実践できる街づくりのヒントが一杯詰まった津屋崎研修

視察研修前、ネットで津屋崎ランチがどんなところか調べてみました。そこには、津屋崎ラ

ンチ代表の山口さんが自ら地域に入って街づくりを実践していると載っていたが、あまりピンときませんでした。よそ者が地域に入って街づくりってできるのだろうか。視察前そんな疑問を持っていました。しかし、二日間の視察で山口さんがいろんなアイデアを形にするため、自分も津屋崎に住み、時間をかけながら地域の課題に向き合っていく姿を見て、よそ者ではなかったと気づきました。

今回の津屋崎視察研修は、自分ができる日の楽しみ方(テナントの曜日ごとのシェア)や小さな経済(複業)を見つけ出すコツ、人を巻き込む時の問題対策ではなく、楽しみに誘う視点など、長崎に帰ってから実践できる街づくりのヒントが一杯詰まっていました。このヒントを今後に生かして、長崎の街づくりを楽しみながらできるようになりたいと強く感じた津屋崎視察研修でした。

(山口俊郎)

### 直に自分の目で確かめコミュニケーションを取りながら理解すること

今回の研修で実際に津屋崎に行き、山口さん達のお話を聞いて、直に活動している方の話を聞くこと、その土地の空気を感じることで、こんなにも強い印象を残すのか、と感動を覚えました。この講座を通して対話することの大切さを学んでいたはずですがそれを改めて実感しました。

今の世の中では、例えば全国のまちづくりやまちおこしについて知りたいと思えばいくらでも情報が手に入ります。それで理解したような気になってしまいそうですが、直に自分の目で確かめコミュニケーションを取りながら理解することの重要性を忘れてはいけないと感じました。

この研修を通して、今後自分にとって何をするのにしても大切にすべきことのひとつをつかむ

ことができた気がします。

また津屋崎という環境がそうさせていた部分もあるかと思いますが研修中は何もかもが楽しかったです。本当に貴重な経験をさせていただきありがとうございました。(松田優子)

### 「感情の折り合いをつけることが大事だ」という言葉が印象的でした

6月28日から1泊し、津屋崎のまちの中を山口さんに案内していただき、山や海が近くにあり、歩いて回った街並みの中には、文化や伝統の歴史を感じ、地形的にも長崎に似た、とても素敵なまちでした。

山口さんの話で地域での活発な活動の中には、地域の方々に働きかける大きな力を感じました。常に相手の立場になり、熱い思いを秘めて活動する、ファシリテーターとして、つい技術的なことばかりを考えていましたが、山口さんの話の中で「感情の折り合いをつけることが大事だ」という言葉が印象的でした。人としての心の豊かさ、受け入れる心の広さを感じ、学ばせていただきました。

長崎の良さを再確認しながらワクワク大会議に取り組んでいきたいと思います。参加させていただき、大変お世話になりました。ありがとうございました。(小山孝子)

### やってみたかった“何か”が実現できる。そんなしくみや雰囲気を作るのがファシリの役目

研修での一番の目的は移住政策について知ることでした。しかし実際にはもっと大きなことを学んだように思います。それは、「地域の人たちの“暮らしやすさ”や“楽しさ”がどうやったらくみ出せるか」ということに軸を置いたま

ちづくりのあり方です。やってみたかった“何か”が実現できる。そういうしくみや雰囲気を作るのがファシリテーターの役目なのだと感じました。

ブランドを作るのではなく、地域の人から自分らしい生活を送れるように働きかけ、それらの生活が集まって津屋崎の魅力、ひいてはまちづくりになっていく。移住者が多いのは、これらのプロセスの結果だと思います。

山口さんの「ファシリテーションとは感情の折り合いをつけること」という言葉が印象に残りました。住んでいる人を大切にしているからこそその言葉だと感じました。(松野都)

### 「人として」心に響くキーワードがたくさんありました

今回の研修では、まちづくりやファシリテーターについての学びに留まらず、「人として」心に響くキーワードがたくさんあったように思います。信念を持ち続けること。気持ちがきちんと届くように発信し続けること。それから、押しつせずに「待つ」ということ。多分今後、何かに迷った時やくじけそうな時、山口さんの言葉を思い出すんだろうな。そして、強く優しく進んでいけると思います。

こんな大切な時間をファシリテーター養成講座受講生のみならずと共有できたことに感謝。今回の学びを最高の【GIFT】にして、町中に振りまこうね。Let's go together！(大塩祐子)

### 住んでいる人が町をたのしむ、空気感を楽しむ日常づくり

研修旅行に参加することができてとてもよかったです！

はじめは津屋崎のことを全く知らず、他の地域

の町づくりの様子が見学できればいいなあという気持ちでいましたが、まち歩きをしていくにつれ、津屋崎が好きになっていく自分に気がつきました。山口さんのお話で、観光にきた人を楽しませることよりも、住んでいる人が町をたのしむ、空気感を楽しむ日常づくりを行っていると話していただいたことがとても印象的で、長崎に住んでいる私はどうやったら、観光客がくるのか、長崎の活性化ばかり考えていたので、目から鱗でした。

町づくりとファシリテーションが密接に関係し、町づくりがスムーズにしている実例を見ることができましたし、長崎が住みやすい町になるか考えるヒントがたくさん津屋崎にあって、とても有意義で心もとても癒された研修でした。ありがとうございました！(中川香菜)

### まちづくりとは日々続けていくこと

津屋崎への研修を終えて感じたことは、まちづくりとは日々続けていくことだということです。イベントをして外から人を呼んで地域を盛り上げるのではなく、普段の生活を心地よいものにすることが、その土地に暮らす人にとって本当に必要なまちづくりなんだと思いました。

地域・学校でワールドカフェを開催していくなかで、地元の人と移住してきた人、大人と子どもが理解し合い、距離を縮めていった話を聞き、「話し合いの文化」をまちに広げていくことが、これからのまちづくりには欠かせないことだと改めて感じ、今後ファシリテーターの必要性はもっと高まっていくのではないかと思います。

「仲が良い人とだけやっていけばいいわけではない。価値観が違う人とも一緒にやっていくことが大切」「先頭を走るのではなく、みんなの心に火をつける」という山口さんの言葉には、ファ

シリテーターとしてスキルばかりに目を向けるのではなく、人の心をつかむことの大切さを感じました。

学ぶことが多い2日間、とても有意義な研修だったと思います。ありがとうございました。

(稲岡涼子)

## ファシリテーター養成講座活動記録

日 時	場 所	内 容
<b>平成 26 年</b>		
4 月 6 日 (日)	長崎市社会福祉会館 4 階	第 1 回 前年度の振り返り
6 月 8 日 (日)	長崎市社会福祉会館 4 階	第 2 回 自主研修
6 月 28 日 (土) ～29 日 (日)	福岡県福津市津屋崎	先進地視察研修 「津屋崎ランチ」
7 月 6 日 (日)	長崎市社会福祉会館 4 階	第 3 回 自主研修
8 月 3 日 (日)	長崎市社会福祉会館 4 階	第 4 回 自主研修
9 月 7 日 (日)	長崎市社会福祉会館 4 階	第 5 回 プログラム発表とフィードバック
10 月 5 日 (日)	市立図書館多目的ホール	第 6 回 ランタナワクワク大会議
11 月 2 日 (日)	長崎市社会福祉会館 4 階	第 7 回 振り返り～職場、地域での実践に向けて～
<b>平成 27 年</b>		
3 月 21 日 (土・祝)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり ・修了式 ・パネルの展示、演習実施

## ファシリテーター養成講座

講師	堀 公俊				
1	生月 菜々子	21	松野 都		
2	稲岡 涼子	22	松原 貴大		
3	井上 順次	23	向井 布美子		
4	井上 恒博	24	安田 一昭		
5	江原 有紀子	25	吉本 絵美		
6	大城 あゆみ				
7	大串 美咲				
8	大塩 祐子				
9	奥村 公子				
10	片岡 恵				
11	蒲原 新一				
12	楠本 剛史				
13	小森 優子				
14	小山 孝子				
15	竹中 克月				
16	中川 香菜				
17	西岡 克浩				
18	林田 志帆				
19	原 真寿子				
20	松田 優子				

## 自分新化講座の概要

広く市民の皆さんに対して、様々な分野においてわが国のトップクラスの方々と接する機会を設けることにより視野を広め、長崎の活性化に向けて行動するきっかけづくりとし、併せて市内外への長崎伝習所の認知度を高めようと平成23年度から開催しています。

平成26年度は、初年度にプロデュースをお願いした福地茂雄氏(アサヒグループホールディングス株式会社相談役)に再度プロデュースをお願いし、その交友関係の中から、バラエティに富んだ講師陣をご紹介いただき、全6回で開催しました。

### 概要

開催回数：平成26年9月から平成27年

2月までの間に6回開催

会場：長崎ブリックホール国際会議場

対象：一般・学生(高校生・大学生)

聴講料：前売券4,000円(全6回分)、

当日券：一般1,000円/回、

当日券：学生500円/回

前売券販売開始：7月22日(火)

前売券販売場所：長崎市役所(生協売店)、

長崎市市民活動センター(長崎伝習所事務局)、

長崎ブリックホール(チケットカウンター)、

浜屋プレイガイド



田上総長のあいさつ



昨年の自分新化講座の取り組み紹介



伝習所の「塾」事業の取り組み紹介



毎回多くの聴講者で賑わいました



## 第1回

日 時：平成 26 年 9 月 19 日(金)

19:00～21:00

講 師：福地茂雄氏(アサヒグループホールディングス株式会社相談役)

テーマ：「読書がもたらす豊かな人生」

入場者数：330 人



福地茂雄氏



## 第2回

日 時：平成 26 年 10 月 30 日(木)

19:00～21:00

講 師：平野啓子氏(語り部・かたりすと、元 NHK キャスター)

テーマ：「心技体…語り部・平野啓子～「日本美再発見！語りへの誘い」～」

入場者数：256 人



平野啓子氏



### 第3回

日時：平成26年11月26日(水)  
19:00~21:00

講師：水戸岡鋭治氏  
(デザイナー、イラストレーター)

テーマ：「デザインは公共のために」

入場者数：335人



水戸岡鋭治氏



### 第4回

日時：平成26年12月17日(水)  
19:00~21:00

講師：桑野和泉氏  
(由布院玉の湯代表取締役社長)

テーマ：「九州・観光まちづくり」

入場者数：210人



桑野和泉氏



## 第5回

日 時：平成 27 年 1 月 15 日(木)

19:00~21:00

講 師：残間里江子氏

(プロデューサー)

テーマ：「創造のためのプロデューサー感覚」

入場者数：220 人



残間里江子氏



## 第6回

日 時：平成 27 年 2 月 12 日(木)

19:00~21:00

講 師：小篠ゆま氏

(ファッションデザイナー)

テーマ：「現代のライフスタイルへファッションデザイナーからの提案」

入場者数：212 人



小篠ゆま氏



感謝の心  
 福地茂雄  
 平成二十六年 秋

福地茂雄氏

雪月花吟  
 最思反  
 平成二十六年三月十七日  
 桑野和泉

桑野和泉氏

「第四回長崎伝習所特別講座  
 自分新化講座」福地茂雄プロデュース  
 語り部・かたりすと  
 平野啓子  
 2014. 10. 30  
 芥川龍之介「奉教人の死」回博脚本  
 平野啓子構本・脚本  
 エル・トル号物語「道難く日暮し」の夜情

平野啓子氏

明日が  
 雨でも  
 嵐でも  
 荒天決行！  
 残間里江子  
 2015. 1. 15

残間里江子氏

笑顔と  
 笑いと  
 笑顔です。  
 2014 11 26  
 水戸岡鋭治  
 水戸岡鋭治

水戸岡鋭治氏

Blind Spot  
 2015-Feb-12  
 小篠ゆま

小篠ゆま氏

